

会社概要 (2017年3月31日現在)

- **商号**
パイオニア株式会社
PIONEER CORPORATION
- **本社**
東京都文京区本駒込2丁目28番8号 文京グリーンコート
- **創業**
昭和13年1月1日
- **設立**
昭和22年5月8日
- **資本金**
92,881百万円 (平成29年10月5日現在)
- **従業員数**
16,763名 (連結)
- **連結子会社**
73社 (国内23社、海外50社)
- **持分法適用関連会社**
8社 (国内4社、海外4社)
計 81社

パイオニアグループ CSR報告書 2017

本報告書の対象範囲

- **対象期間**
2017年3月期 (2016年4月1日から2017年3月31日まで) を対象としますが、それ以前の取り組みと最近の活動も含まれます。
- **対象組織**
パイオニア株式会社およびパイオニアグループ連結子会社 73社
- **本報告書において**
「パイオニア」および「当社」とは、パイオニア株式会社を表します。また、「パイオニアグループ」および「当社グループ」とは、パイオニア株式会社を含むグループ全体を表します。

関連する情報

- **関連する報告書および情報**
財務情報に関する情報は、「有価証券報告書」「アニュアルレポート」などの報告書およびホームページで開示しています。
<http://pioneer.jp/corp/ir/>
環境に関する情報は、ホームページで開示しています。
<http://pioneer.jp/corp/society/environment/>
CSRに関する情報は、ホームページで開示しています。
<http://pioneer.jp/corp/society/csr/>
技術開発・研究開発に関する情報は、ホームページで開示しています。
http://pioneer.jp/corp/crdl_design/crdl/
- **参考にしたガイドライン**
 - ・ 環境省「環境報告ガイドライン2012年度版」
 - ・ GRI (Global Reporting Initiative) ガイドライン
 - ・ ISO26000 (社会的責任の手引書)



本報告書に関するご意見・お問い合わせ先

パイオニア株式会社
法務・リスク管理部

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコート
TEL 03-6634-8777 (代表)

パイオニアのホームページでもご意見・お問い合わせを受け付けています。
<https://www3.pioneer.co.jp/support/contact/csr/>



この報告書は、環境に配慮し、FSC®森林認証紙を使用しています。また、揮発性有機化合物を含まないNON-VOCインキを使用しており、印刷は有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。



より多くの人と、感動を

「今までにない感動を体験したい」というのは、人類共通の願いです。

“パイオニアが提供する「商品」「サービス」を通じて、より多くの人と、「一緒に」感動を分かち合いたい”パイオニアの企業理念「より多くの人と、感動を」には、この願いが込められています。

お客様、社員、ビジネスパートナー、NGO、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様と一緒によりよい社会にすることを目指しています。

このCSR報告書を通じて、皆様との対話をさらに進めていきたいと考えています。

Contents

第一部 パイオニアの目指す姿と事業展開

- トップメッセージ..... 03
- 企業ビジョン体系..... 05
- 今後の成長に向けて..... 07
- 特集1 安心・安全な自動車社会の実現に向けて 09
- 特集2 車両業務の支援を通じて、人と社会に貢献する ... 11
- 特集3 たくさんの笑顔に出会いたくて 13

第二部 パイオニアのCSRを支える体制・取り組み

- 消費者課題..... 15
- 労働慣行・人権 19
- 環境..... 21
- コミュニティへの参画とコミュニティの発展..... 25
- 組織統治、公正な事業慣行 27



トップメッセージ

当社の成長と持続可能な社会への 貢献を両立し グローバル社会から選ばれ続ける 企業を目指します。

パイオニアグループは、創業の精神を表した企業理念「より多くの人と、感動を」の実現を目指し、また、社名でもある「開拓者精神」を揺らぐことのない信条として継承しながら、事業成長を遂げてまいりました。現在の基幹事業であるカーエレクトロニクス事業においても、「コンポーネントカーステレオ」「GPSカーナビゲーション」などの数多くの“世界初”を通じて、お客様とともに新たな文化と感動を創造してまいりました。これからも当社の得意とする「エンタテインメント」の更なる追求に加え、最適なインターフェースを通じて様々な「情報サービス」に車両・車の利用者情報などを組み合わせることで、車室空間における快適、感動、安心・安全を創出する「総合インフォテインメント」のリーディングカンパニーを目指してまいります。

また、現在、様々な業界が参入し未来のモビリティ社会を見据えた取り組みが行われています。当社の強みを生かし、成長が見込めるカー関連事業として、「3D-LiDARセンサー」と「自動運転用高精度地図」、それらを組み合わせた「データエコシステム」の開発に取り組んでいます。そして、オランダの地図および位置情報サービスのグローバルプロバイダーであるHERE Technologiesとの業務・資本提携により、グローバルな標準地図およ

び自動運転をサポートするグローバル高精度地図サービスの提供に向けた取り組みを加速しています。自動運転の実現に「なくてはならない会社」を目指し、モビリティ社会の発展に貢献してまいります。

2018年は、当社にとって、創業80周年を迎える節目であり、将来の成長に向けて経営基盤を強化する重要な一年と位置付けています。その中でも、ESG（環境 Environment・社会 Social・ガバナンス Governance）課題への対応は、中長期を見据えた企業価値向上のチャンスであると認識しています。例えば、我々が注力しているセンサー技術や地図データは、自動運転以外にも、社会インフラの幅広い領域での活用が期待できます。また、有機EL照明事業や医療・健康機器関連事業の成長は「持続可能な開発目標（SDGs）」に代表される世界共通目標の達成に貢献できると考えています。当社は本業におけるCSR経営を積極的かつ能動的に推進することで、グローバル社会から選ばれ続ける企業を目指してまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2017年11月

代表取締役 兼 社長執行役員 小谷 進



企業ビジョン体系

企業理念

より多くの人と、感動を

事業方針
-目指す姿-

『総合エンターテインメント』の
リーディングカンパニー

「より多くの人と、感動を」は、パイオニアの創業の精神を表す企業理念です。パイオニアは、1962年に世界初のセパレートステレオを、1975年に世界初のコンポーネントカーステレオを、1990年には世界初の市販GPSカーナビゲーションシステムを、さらに2012年には世界初のヘッドアップディスプレイ搭載の市販カーナビゲーションシステムを発売するなど、斬新かつユニークな発想と、最先端のテクノロジーから生まれた商品・サービスによる新たな市場と文化の創造を通じて、企業理念「より多くの人と、感動を」を実現し続けてきました。

パイオニアはこれからも、「音」「映像」「情報」が持つ無限の可能性を究め、お客様一人ひとりの心に響く新しい感動を提供し続けてまいります。そして、来たる自動運転時代を見据え、変革がダイナミックに進むカーエレクトロニクス業界において、車室空間における快適、感動、安心・安全を創出する『総合エンターテインメント』のリーディングカンパニーを目指してまいります。

パイオニアグループでは、企業理念およびビジョン体系実現のための「行動憲章」を頂点とするルール体系の整備を通じ、「誠実な業務執行」の体制を確保しています。

「パイオニアグループ企業行動憲章」

- 私たちは、社会にとって有益かつ安全な製品とサービスを提供します
- 私たちは、社会的正義を尊重した公正な企業活動を推進します
- 私たちは、地球環境の保全につとめ、継続的に改善活動を行います
- 私たちは、情報の適正な開示につとめます
- 私たちは、万全な危機管理体制のもと迅速・誠実に対応します
- 私たちは、資産・権利を厳正に管理、保護します
- 私たちは、グローバルな視点に立ち、社会貢献につとめます
- 私たちは、人間尊重にもとづいた企業活動をめざします

「パイオニアグループ行動規範」

社会的責任の自覚、職責に従った誠実な行動の判断基準

「パイオニアグループ規程」

グループ全体に適用する共通ルールブック

社是

1. 社会に奉仕すること
1. 社会から信用と尊敬を得ること
1. 開拓者精神を発揮すること
1. すべてに均衡を重んずること
1. 常に和を尊び協力一致すること

パイオニアでは、創業以来の信条である「社是」を、役員・従業員各自が自ら体得して判断と行動の基準としています。

パイオニアにとってのCSR

パイオニアグループは「事業を通じた社会的課題の解決」「CSR経営基盤の底上げ」を実践します。これは社是「社会に奉仕すること」「社会から信用と尊敬を得ること」に通じるパイオニアのDNAそのものです。

当社の持続的な成長と地球・社会のサステナビリティへの貢献を両立し、グローバル社会から選ばれ続ける企業を目指します。

当社の成長と地球・社会のサステナビリティ(持続的発展)への貢献



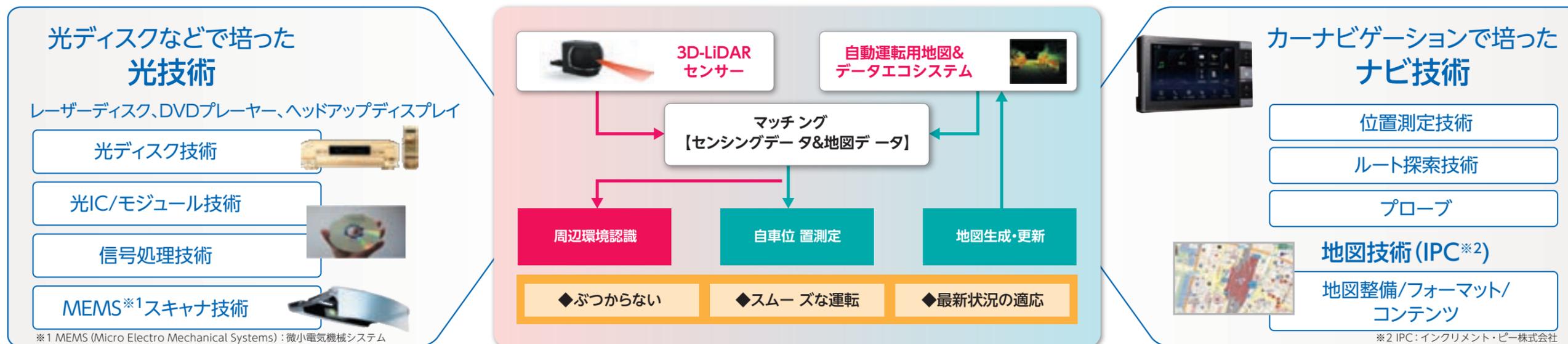
※SDGs : 2015年9月国連で採択された2030年までの「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」

今後の成長に向けて

「自動運転時代になくはない会社」を目指して

「事故のない社会」「渋滞の緩和」「高齢者およびハンディキャップを持つ人の移動の自由」など、移動に係わる社会的課題を解決するために、当社は自動運転におけるキーテクノロジーの開発に取り組んでいます。

パイオニアの自動運転キーテクノロジー



3D-LiDARセンサーは、自動運転において周辺環境を認識するための「目」の役割を果たします。レーザー光で対象物までの正確な距離を測定し、遠方や周辺の状況をリアルタイムかつ立体的に把握します。

当社は、比較的遠方の落下物を検知する望遠LiDAR、前方の移動物体などを検出・認知する中距離用の標準LiDAR、車の周辺の物体を検出・認知する広角LiDARの3種類の開発に着手しています。

自動運転用地図は、車線ごとの幅員や信号機といった、従来の地図とは比べ物にならない膨大かつ高精度なデータを必要とします。情報量の多い自動運転用地図そのものをリアルタイムに更新するのは非常に困難なため、当社ではその解決策として、3D-LiDARセンサーのセンシングデータと自動運転用地図との照合で生じた差分を、自動運転に必要な要素に限定して収集し、クラウドを経由して解析・更新した地図データを効率的に車両へ配信する「データエコシステム」の構築に取り組んでいます。

用途に応じたLiDARの開発



自動運転関連ロードマップ

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022~25年
【センサー】 3D-LiDAR		サンプル製作/評価検証		製品化検証		量産準備完了・実車検証	収益 本格化
【システム】 データ エコシステム		データ更新・自車位置測定 システム原理開発	設計開発			【データエコシステム】 実証~運用	
【地図】 自動運転用地図	整備への投資		外販スタート				

ダイナミックマップ基盤との連携/グローバルスタンダード獲得への取り組み/戦略パートナーとの協業

※3 HERE:オランダの地図および位置情報サービスのグローバルプロバイダーであるHERE Technologies

特集1 安心・安全な自動車社会の実現に向けて

近年、自動ブレーキをはじめとする先進運転支援システムを搭載した新車が増えています。一方で、大多数を占める先進運転支援システムを搭載していない車に対しても、事故を未然に防ぐことができるシステムを提供できないか。この思いをもとに、既販売車に搭載可能な先進運転支援システム「Intelligent Pilot」を開発し、東京海上日動火災保険株式会社の個人の保険契約者様向けサービス「ドライブエージェントパーソナル」に採用されました。パイオニアは独自の技術と膨大なビッグデータを活用することで、安心・安全な自動車社会の実現に挑戦しています。



より多くのドライバーやその家族に安心・安全を届けたい

日本において交通事故により年間数十万人の方が被害に遭われています。「交通事故の削減、被害の軽減に貢献したい。より多くのドライバーやその家族に安心・安全を届けたい。」という想いで今回のシステムの開発を進めました。これは、パイオニアのもつ最先端のクラウド技術、通信型車載器開発技術を結集させ、業界初の取り組みに挑戦するものでした。新たな技術開発に試行錯誤の連続でしたが、関係者の皆様の高いモチベーションと協力により、実現することができました。今後も国内外を問わずより多くのお客様に安心・安全を届けていきたいと思います。



市販事業部 事業企画部
テレマティクス部 企画3課 課長
小林 好祥

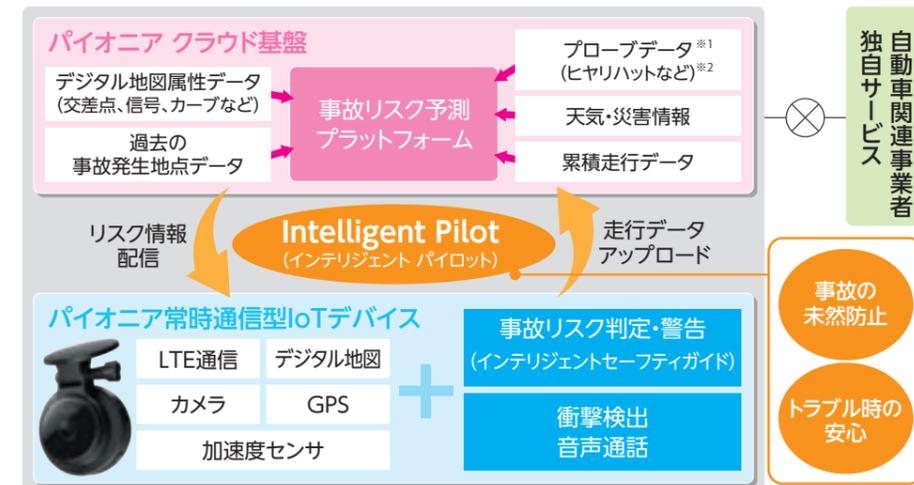
後付けできる先進運転支援システム「Intelligent Pilot」



デジタル地図を活用した独自の「事故リスク予測プラットフォーム」により、事故多発地点等のプローブ情報、天候、個人の運転傾向などから統合的に事故や危険を予測。ドライブレコーダー端末を通じて、車両の状況に合わせた注意喚起や警告を行うほか、事故時にはコールセンターとの通話が可能。



「Intelligent Pilot」活用イメージ



※1 プローブデータ 自動車が走行した位置や車速などをネットワーク経由で蓄積したビッグデータ。統計処理などを施し個人情報が含まれない形で活用されている。
 ※2 ヒヤリハット 事故にはいらなかったものの、飛び出しなどの突発的な事象や運転中の判断ミスに「ヒヤリ」としたり、「ハッ」としたりする事例。



注意喚起や警告を行う「インテリジェントセーフティガイド」のイメージ

特集2 車両業務の支援を通じて、人と社会に貢献する

車両を利用する業務の現場では、人手不足からくる長時間労働の問題やドライバーの育成問題、事故等の企業リスクが存在しますが、企業における車両のIT化によるリスク回避は進んでいるとは言えず、紙地図や人に頼った運用が多い状況です。

カーナビゲーションの導入で訪問地への安全でスムーズな誘導を実現し、効率的なルートはCO₂や燃料費の削減に貢献できますが、パイオニアのクラウド型運行管理サービス「ビークルアシスト」を活用すると、さらに日々の訪問計画、指示の自動化や危険運転の自動管理等が行えます。これにより新人やアルバイトでも車両業務が可能になり、ドライバー不足改善にも貢献するとともに、物流サービスの高度化や安全運転の徹底も図れます。

私たちは、こうした企業支援を通じて、社会全体の効率化・安全・環境保全に貢献してまいります。



導入企業様の業務効率の向上を通じて、生産性向上や働き方改革に貢献したい

私たちは、カーナビを中心とした車載端末とサービスの利用を通じ、導入企業様における業務効率向上に貢献したいというコンセプトで商品を提供しており、日々その効果を最大化すべく開発に努めています。

まず業務用カーナビを導入いただくことで効果はありますが、クラウドサービスも併せて利用していただくことで、業務の自動化が急速に進み、効果が飛躍的に高まります。

さらに私たちのシステムの特長は、利用企業様で既にお使いのシステムとの連携をカーナビ端末、サービスともに可能とする点があります。これにより現状のシステム上で、ビークルアシストのデータや機能等を活用することができるのです。

今後私たちは「ビークルアシスト」を通じて、より多くの企業の生産性向上や働き方改革に貢献したいと思っております。



市販事業部 事業企画部
カーソリューション部 企画部
サービス戦略担当部長
谷田部 茂樹

「業務の効率化」と「安心・安全」に貢献する業務用カーナビゲーション + 導入効果をさらに高めるクラウド型運行管理サービス「ビークルアシスト」

クラウド型運行管理サービス「ビークルアシスト」の仕組み



「ビークルアシスト」を使って、さらに業務効率化と安全・安心を推進

効率的な訪問計画(訪問順)を誰でも作成可能



訪問先を選択するだけで案内・誘導



事務所側と通信し安全運転を推進(エコも同時実現)

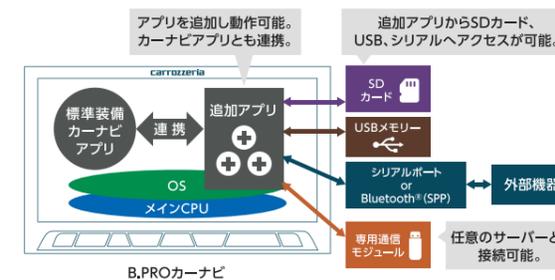


改善ポイントも自動でガイド



お客様の要望に応える仕組みを準備

任意のアプリを追加可能なB.PROカーナビ



専用メニューの追加等が行えます。

既に利用しているシステムとの連携利用が可能なWeb API



特集3 たくさんの笑顔に出会いたくて

聴覚障がいの方の笑顔に出会い 1992年より身体で聴こう音楽会は始まりました。

創業者の志「より多くの人に、良い音を」のもと1992年より「身体で聴こう音楽会」を開催しています。
創業者、松本望が考案した音を振動に変える“体感音響システム”を使い、聴覚に障がいがある方もない方も一緒に楽しめる音楽会。
企業理念「より多くの人と、感動を」を具現化したこの音楽会は、パイオニアの精神そのものであり、共感する多くの方々に現在も支えられています。
お客様の笑顔、出演者の笑顔、ボランティアスタッフの笑顔…たくさんの笑顔に出会いたくて、これからも私達はこの「身体で聴こう音楽会」を続けていきます。



「より多くの人と、感動を」実現する音楽会

音を振動に変える“体感音響システム”

振動装置が組み込まれたポーチとザブトンクッションで構成され、音を振動として身体に伝えることで聴覚に障がいをお持ちの方（補聴器を使っている難聴、または中途失聴の方）も、ヘッドフォンや磁気ループからの音と一緒に全身で音楽を楽しむことができます。



お客様と一緒に作り上げる音楽会



お客様に喜んでいただけるよう、朝からボランティアスタッフ全員で会場準備にとりかかります。

音楽会が始まり、お客様、出演者、スタッフが一体となり、毎回、会場はあたたかい雰囲気になります。

音楽会終了後に
たくさんの感想を
いただきました

お客様の声
諦めていた音楽を久しぶりに聴くことができ感動しました！

出演者の声
ありがとう！の言葉にこちらが
ありがとうの気持ちになった

ボランティアスタッフの声
お客様の笑顔から、こちらが元気を
いただいた



お客様の声
聞こえていた何十年前の自分を思い出して涙が出てきた

お客様の声
毎回音楽会に来ることを楽しみにしています！

出演者の声
お客様が一音一音、一生懸命聴いてくださるので、こちらもいつもより真剣に演奏させていただきました

音楽会を通して ～ボランティアスタッフの声～



お客様が笑顔で楽しんでくれている姿を見るとパイオニアで働く人間としてとても嬉しいですし社内外の様々な方と出会えることも楽しみのひとつです。

財務部 財務2課 佐々木 香奈

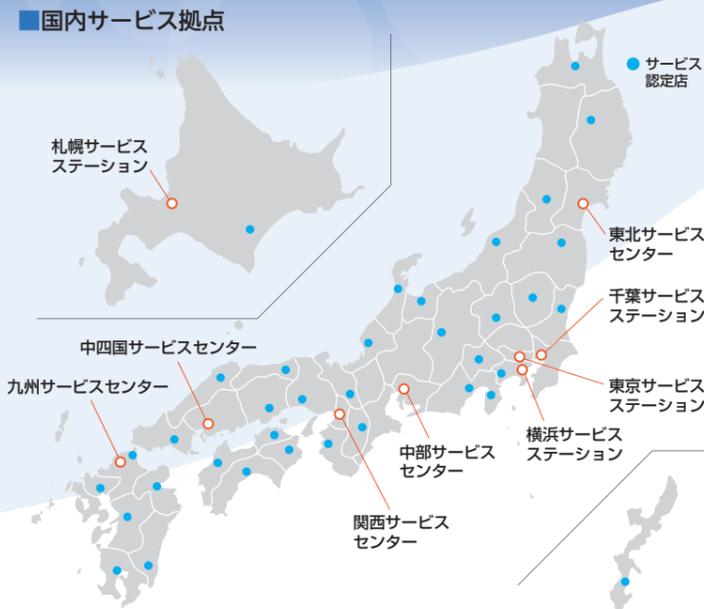
消費者課題 お客様の満足と信頼を得るために

安心と満足が得られる商品とサポートを提供します。

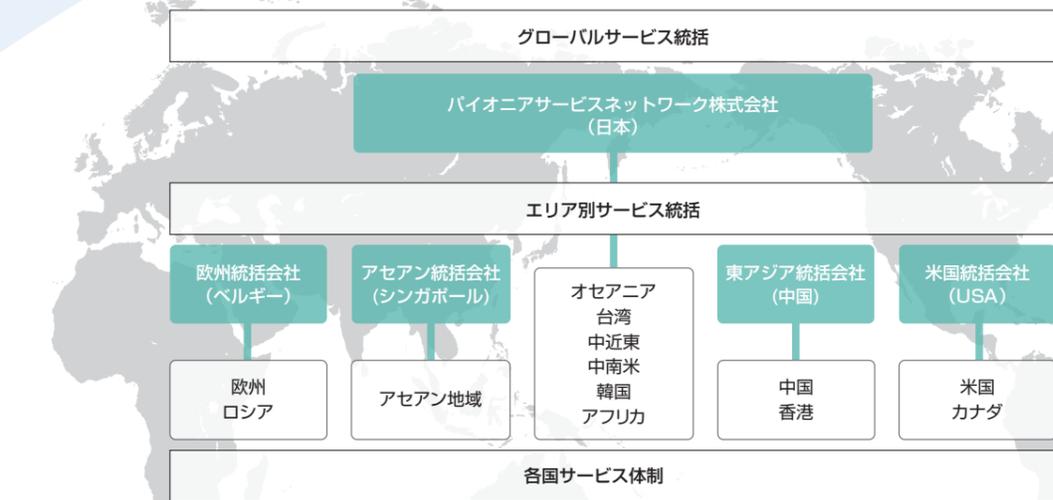
パイオニアグループでは、品質保証理念として、「お客様の安心と満足が得られる商品とサービスを提供する」を掲げています。

より多くのお客様の安心、満足のために、「お客様の声」に対して、品質保証部門とお客様サポート＆サービス部門が連携し、改善に結びつけています。

全世界のお客様の期待にこたえます。>>>



全世界サービス体制



「お客様の声」を改善に結びつけています

品質保証部門

◆ 品質改善

- 商品の品質や安全性に関わる情報をお客様や販売店様から積極的に収集・分析し、継続的な品質改善に努めています。
- 安全性にかかわる情報は一括管理し、迅速に経営トップに報告するとともに、お客様や販売店様に対して、適切な情報提供を行っています。
- 商品に関する販売国・地域の法律、国際規格や業界基準などを収集・展開し、商品づくりに反映しています。

お客様サポート部門

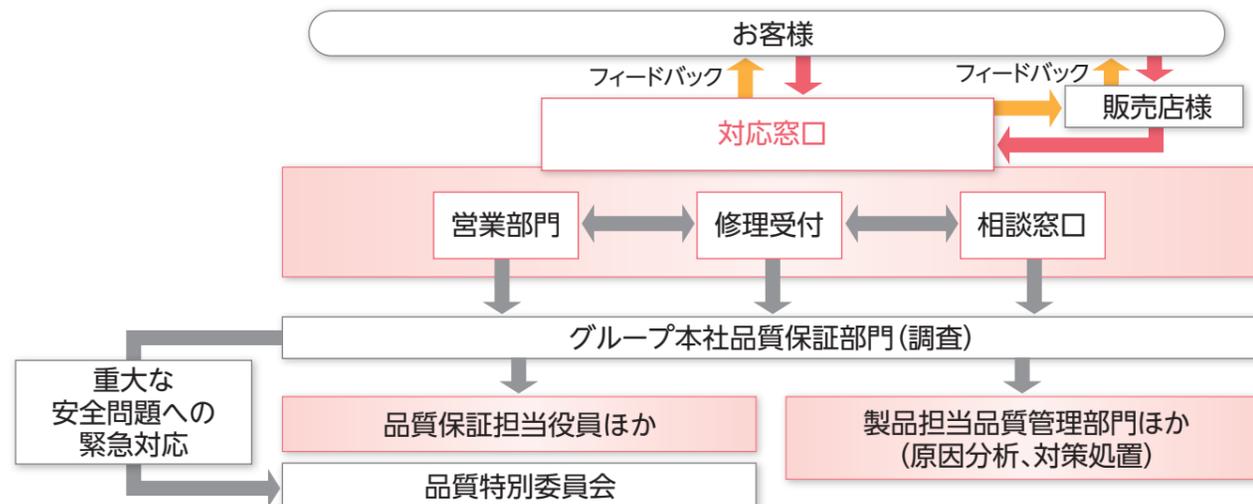
◆ 日常の活動

- お客様からの日々の問い合わせ内容を分析し、市場の課題を品質保証部門及び事業部へフィードバックし、商品の改善に活かしています。

◆ 定期的な情報交換

- 「お客様の声」という定期便を月次で役員と関連部門の部門長、関連するすべての担当者に配信し、よくあるお客様からの生の声を共有しています。
- 事業部と定期会合で、情報を提供しています。

■ 商品の安全性にかかわる、お客様からの情報の流れ (概要)



真心を込めたサポート&サービスを提供

お客様視点に立った電話対応

カスタマーサポートセンター (国内) では、お客様の質問を正確に理解するために、オペレーターの横に商品が操作できる状態で置かれています。商品情報の提供や付加価値の提案を行い、お客様満足の向上を図っています。



電話応答率 88.9% (2017年)

修理スピード向上への取り組み

年間約13.8万件(国内)の修理に対応しています。「修理スピードの向上」への取り組みは、お客様から高い評価を受けています。また、全世界でのカーOEM製品のサービス体制の強化・充実や、新興成長市場に対するサービス体制の強化・充実を図っています。



■ 国内を対象とするお客様満足度調査 (自主調査) の結果 (2017年)

修理完了者総合満足度	88.9%	カスタマーサポートセンター総合満足度	86.5%
修理受付窓口応対満足度	97.8%	部品受注センター満足度	87.1%

- 上記調査結果は、当社独自の満足度調査によるものです。
- 修理完了者総合満足度は、アンケートはがき及びインターネットにて、部品受注センター満足度は、パーツに同梱されるアンケート用紙にて、複数の質問を選択頂き、「良い」「まあ良い」「あまり良くない」「悪い」の四つの選択肢のうち、上位二項目 (良い、まあ良い) の合計割合を満足度としています。
- それ以外の満足度は、電話応対終了後、自動音声応答を使用し質問に回答頂き、「大変満足」「まあ満足」「少しご不満」「かなりご不満」の四つの選択肢のうち、上位1項目 (大変満足) の割合を満足度としています。

お客様サポート <http://pioneer.jp/support/>

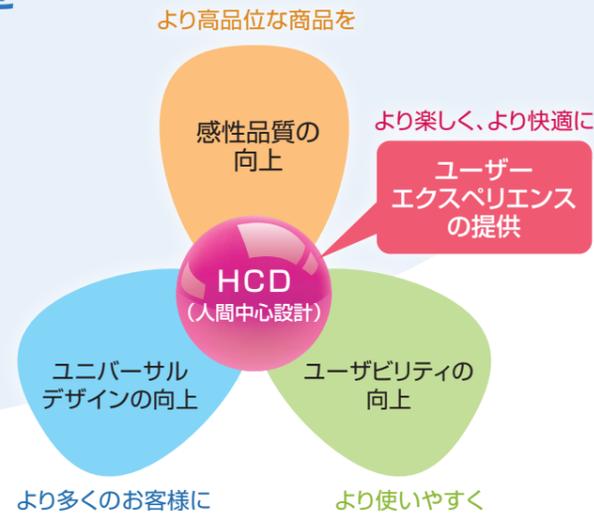
消費者課題 お客様の満足と信頼を得るために

お客様の安心と満足のために、さらなる品質向上と利用者視点に立ったモノづくりを推進します。

パイオニアグループでは、商品開発の初期（源流）段階から品質目標の達成に向け、問題点の早期発見と解決を行う全社的なAPQP活動^{※1}に取り組んでいます。

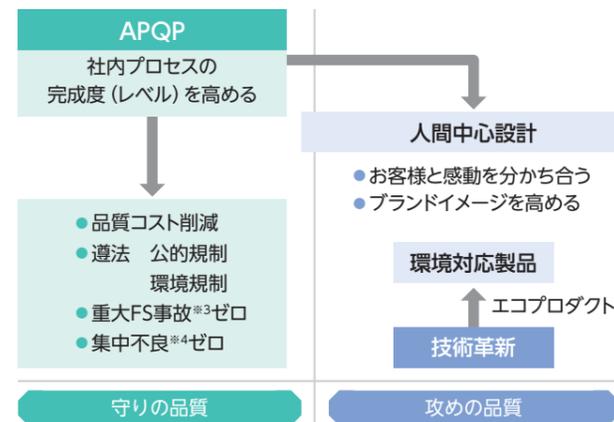
また、利用者視点に立ったモノづくり（人間中心設計^{※2}）を推進し、お客様に楽しく心地よく使っていただけるような驚きをユーザーエクスペリエンス（体験価値）として提供するために挑戦を続けています。

※1 APQP活動（Advanced Product Quality Planning：先行製品品質計画）
 ※2 人間中心設計：HCD（Human Centered Design）
 利用者の要求や利用時の体験をふまえて、商品やサービスを開発するためのプロセス



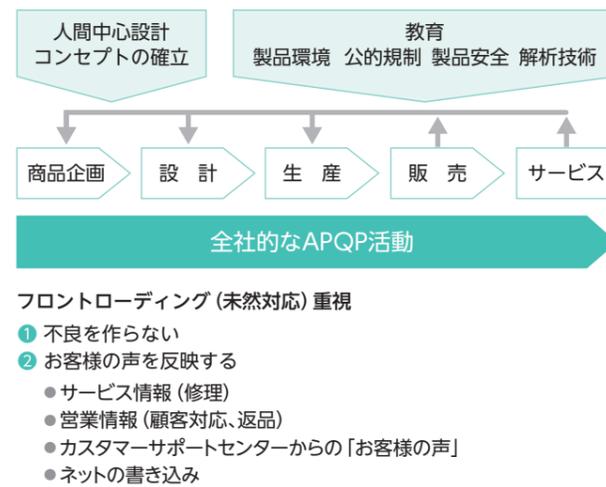
● パイオニアのAPQP活動

■ 品質保証活動の考え方



※3 重大FS事故：製品要因による火災・重傷事故
 ※4 集中不良：特定の要因で多発する製品の市場不良

■ 高品質な商品開発に必要とされるプロセス体制の構築



APQP活動の4つのキーポイント

- ① 事後対処ではなく、予測予防
- ② チーム活動
- ③ 現在の状況について、いつでも共有化されている
- ④ しっかりしたコミュニケーション

● 品質マネジメントシステムによる持続的改善活動

品質管理に関する国際規格である「ISO9001」「IATF16949」に基づいた、品質マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクルを回し続けることで継続的な改善に取り組んでいます。

また、医療機器分野においても、ISO13485を取得しています。

品質保証に関連した当社取得の主なマネジメントシステム

- ISO9001 品質マネジメントシステム
- IATF16949 自動車産業品質マネジメントシステム
- ISO13485 医療機器の品質マネジメントシステム

人間中心設計の推進によりユーザーエクスペリエンスを提供します

医工連携^{※5}による医療用電子聴診器の開発

音響機器メーカーならではの高音質設計

音響機器メーカーとして培ってきた技術やノウハウを活かした高音質設計により、ピュアで正確な生体音の聴診を可能にしました。



医療用電子聴診器 U10シリーズ

医療従事者のユーザビリティを考慮したデザイン

医師の監修のもと、握りやすさや操作性、イヤホン装着性、堅牢性など、ユーザビリティを考慮した形状と、医療機器に相応しい白を基調としたデザインを採用しました。



様々な持ち方へ対応

専用アプリケーションで生体音データを表示・保存・再生

取得した生体音データを無線で端末に送り、専用アプリケーションを使って、表示・保存・再生を可能とし、現場の多様なニーズに応えます。

常に持ち歩くモノゆえの小型・軽量設計

白衣のポケットの中に入れて持ち運ぶことを想定し、折りたたみ構造としています。



小型・軽量化された構造

医療現場でのユーザビリティを追求し試行錯誤

医療従事者の意見を聞きながら何度もプロトタイプを作成し、現場での検証を重ねて、最適なデザインにしました。医師のモチベーションを高める先進性も意識したデザインとなっています。



プロタイプによる検証

※5 医工連携：企業が医療機関と連携して医療機器の開発を行うこと

INTERVIEW

“品質”に自分の意思を入れる

私はサイバーナビや楽ナビなど、日本向けナビ製品の開発から市場までの品質保証業務を担当しています。

より良い製品づくりを目指すなかでは、他部門だけでなく、同じ職場で働く同僚とも意見が相違することもあります。

“品質”という、形にして見ることが難しいものに対しては、特にそうなりがちです。

こんな時、自分の意見を左右する基準の一つ

が、「この状態をお客様に見られて恥ずかしくないか」です。

妥協することなく、さらに改善すべきだと判断した場合は、そこを目指すように関係者に働きかけています。

『より良い製品を作りたい』という思いは誰しも共通ですので、この考えにもとづいた意見は、より納得してもらえます。



品質保証部 第1品質保証部 品質保証1課

服部 翔真

労働慣行・人権 一人ひとりがいきいきと働くために

一人ひとりの働きがいを高め、活躍を推進し、競争力に変えていきます。

パイオニアグループは、企業ビジョンの実現に向け、年齢・性別・国籍に関わらず、プロ意識を持った多様性に富んだ社員がいきいきと働き、新しい価値を創造できる風土づくりに取り組んでいます。働き方に柔軟性を持たせる制度施策はもちろん、キャリア教育をはじめとする人材育成、そして社員の心と健康のサポートを行うなどの社員への支援により、多様なバックグラウンドを持った社員一人ひとりの働きがいを高め、その活躍を促進し、企業の競争力に変えていきます。



● 仕事と子育て両立支援

パイオニアは、従業員の育児と仕事の両立支援のための取り組みを積極的に推進しています。厚生労働省より付与される次世代認定マーク(愛称「くるみん」)を2007年から継続して取得しており、現在は第5期行動計画に沿って「仕事と家庭の両立に向けたアプローチ」、「お互いさまの風土醸成にむけたアプローチ」の2つのテーマを掲げて取り組みを継続しています。また、今後は介護と仕事の両立についても取り組んでいきます。



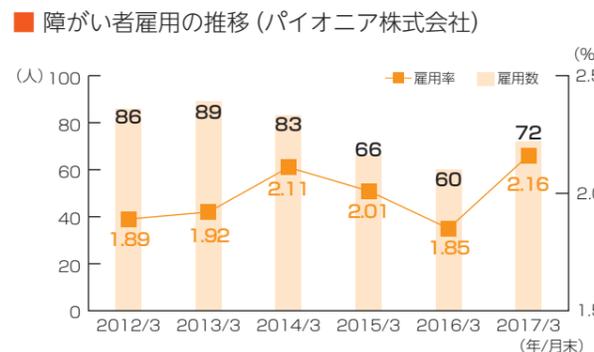
<育児と仕事の両立支援の一例>

- 育児休職からの復職予定者向け職場復帰プログラム
 - ・各種サポート社内制度の説明
 - ・先輩ママ社員との座談会等を通じた不安の軽減やネットワークづくり

女性管理職数および基幹職数推移、育児休職制度などの各種制度の利用者数はこちらをご覧ください。
<http://pioneer.jp/corp/society/csr/employee/>

● 障がい者の雇用促進

パイオニアは、企業の社会的責任を果たすとともに、多様な人材の活用を図っていくために、障がい者雇用の取り組みをこれまで積極的に行ってきました。今後も積極的に障がい者雇用を推進し、グループ全体で職域の拡大に努めていきます。



● 働き方に柔軟性を持たせる制度施策

柔軟な「働き方」と「休み方」の提供は、社員の「働きがい」や「創造性の発揮」につながります。パイオニアは有休消化率70%と、社員のワークライフバランスを重視しています。

<パイオニアの働き方・休み方の選択肢>

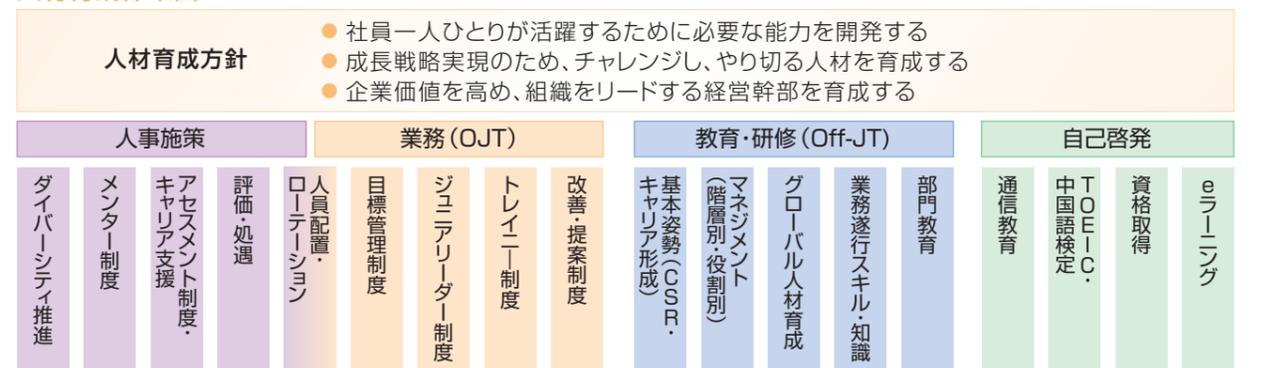
- フレックスタイム制
- フレックスバケーション(5稼働日連続の有休)
- 有休・半休
- 短時間勤務制度(育児・介護)
- 時間単位有休
- リフレッシュ休暇(35歳・45歳・55歳での長期有休)
- 在宅勤務制度

● 人材育成

パイオニアでは、多様な人材の活躍を支援する教育プログラムを豊富に用意しています。業務に必要なスキルの習得はもちろん、ライフステージに合わせたキャリア

教育や自己啓発プログラムで、社員の成長とキャリア形成を支援します。

人材育成体系図



● 社員の心と健康サポート

パイオニアは、社員の健康管理について、安全衛生面での配慮のみならず、人と企業を伸ばす視点において、経営の重要な課題として各種の施策に取り組んでいます。とりわけメンタルヘルスケアは予防中心型の取り組みを推進し、従業員を対象としたセミナーの開催、啓発を目的としたリーフレットの配布、健康管理室の充実、さらに「メンタルヘルス職場復帰プログラム」など、様々な施策を展開しています。

<パイオニアの健康管理に関する施策>

- メンタルヘルス研修の開催
- メンタルヘルス職場復帰プログラム
- 産業医による各種健康セミナーの開催
- 産業医面談・相談
- 有休取得の促進

INTERVIEW

多様性をパイオニアの成長に繋げていきます。

人事部で人材開発とダイバーシティの推進をしています。当社のさらなる成長には、大変重要なテーマです。ダイバーシティを通じ、年齢・性別・国籍にかかわらず、プロ意識を持った多様な社員がそれぞれの個性や価値観を互いに活かし、新しい価値を創造していくことを実現します。そのためには、一人ひとりが成長し、いきい

きと働く環境が必要です。女性の活躍支援制度としては、産休・育休・短時間勤務・在宅勤務等があり、職場復帰プログラムも導入しています。近年の育児休職からの復職率はほぼ100%です。多様な社員の成長支援の育成施策を実行し、一人ひとりが活躍し、働きがいを感じる環境をつくり、さらに活力ある企業にしていきます。



人事部 人材開発担当部長 兼
ダイバーシティ推進担当部長
須藤 由紀子

環境 豊かで安全な環境の実現のために

パイオニアグループは地球環境を維持、改善し、次世代に引き継ぐことが企業の使命の一つであることを深く認識し、常に豊かで安全な環境の実現に寄与するよう努めます。

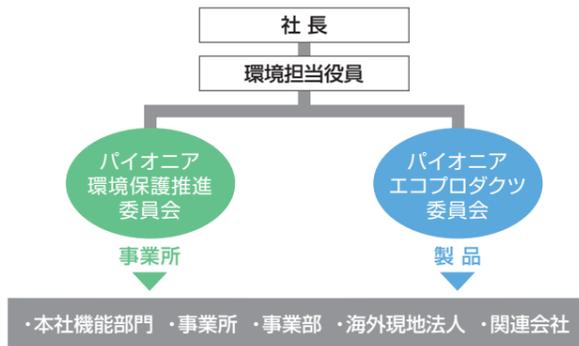
パイオニアグループはこの理念のもと、環境汚染の防止、省資源、省エネルギーに自ら強力に取り組むとともに、「新たなエコで豊かな生活」を提案し、感動をお届けすることも当社の使命と考えています。

また、自然保護活動などへの支援・協力も積極的に行うことにより、地球環境を維持し、次世代に引き継いでいきます。



パイオニアの環境推進体制

環境保護活動を統括する「パイオニア環境保護推進委員会」と組織横断的に製品に関わる環境保護活動を管理する「パイオニアエコプロダクツ委員会」で、事業所と製品の2つの切り口からグループの環境保護活動を推進しています。



パイオニアの環境に関するデータは、「パイオニアグループ環境データ集2017」をご覧ください。
<http://pioneer.jp/corp/society/environment/data/>

● パリ協定に向けての取り組み

電機・電子業界は経団連が提唱する低炭素社会実行計画に基づき、共通自主目標を設定し業界全体で温暖化対策を開始し、パイオニアも参加登録を行いました。原単位評価指標により2012年を基準年とし、2020年の目標達成を目指して活動を推進しています。



● 製品開発での取り組み

製品の環境課題を技術で解決

「エコで豊かな生活」を提案できる商品をお客様に届けることがパイオニアの環境貢献と考えています。「地球温暖化の防止」・「資源循環」・「製品含有化学物質の管理」、これらの課題を当社の環境技術で解決できるように製品開発に取り組んでいます。

活動方針

地球温暖化の防止

- ・消費電力の削減
- ・自動車の燃費向上
- ・輸送時の省エネ

資源循環

- ・材料・部品点数削減
- ・梱包の省資源化
- ・易分解性

製品含有化学物質の管理

- ・環境影響の最小化
- ・グリーン調達の実進
- ・化学物質情報の管理

● 社内表彰制度

パイオニアグループでは環境活動への取り組み向上を図るため、環境保護活動に貢献した全世界の事業所やグループ・個人を社内表彰する「パイオニア環境貢献賞」と、環境保護に寄与すると評価された特許に与えられた「環境特許賞」を設けています。



最優秀賞
十和田パイオニア株式会社

グッド・アクティビティ・アワード
PIONEER TECHNOLOGY (MALAYSIA) SDN. BHD.



INTERVIEW

地球と人にやさしいパイオニアの製品を目指して

パイオニアの企業活動が地球環境や人体に与える影響はゼロではありません。私が担当する業務は、省エネルギー・リサイクル・製品に含まれる化学物質という側面で、こうした影響をできるだけ少なくすることです。そのために製品の開発段階から、世界中の様々な法令や顧客からの要求を満足できるように、パイオニア独自の自主基準を設け

るとともに、仕組みやルールを整備することで、地球と人にやさしいパイオニアの製品づくりを目指しています。ここ数年間の世界的な傾向として、製品に含まれる化学物質規制や環境法規が急激に増え、要求も厳しくなっています。パイオニアの製品が世界で信頼され続けるように、ベストを尽くしたいと思っております。



品質保証部 公的規制認証センター
環境・品質システム課
荻原 靖雄

環境 豊かで安全な環境の実現のために

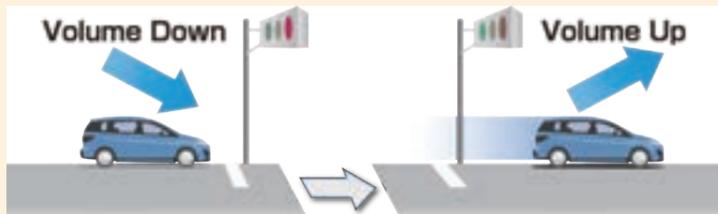
パイオニアはライフサイクルの視点からトータルに環境に配慮しています。

環境に配慮した設計と機能

パイオニアグループでは小型軽量化などの省エネ・省資源や、お客様の使用シーンにおいて環境保護に貢献できる機能の設計・開発に取り組んでいます。また、化学物質の安全性を常に考慮するなど、地球環境に優しい製品の開発を目指しています。

● アイドリングアッテネーター

停車したことを認識すると、AVソースの音量を自動的に低下させ、消費電力を低減。停車後約2秒すると音量を徐々に低下させ、発車後は徐々に元の音量に戻します。



● 「エコ度合い」を楽しく確認
エコ運転評価案内

エコドライブの度合いを、「eスタート率」「一定速度率」「アイドリング率」の3項目から総合的に評価。遊び心あふれるグラフィック表示と音声で案内し、エコドライブをサポートします。



生産現場 (工場) での取り組み

省エネ設備、機器の導入

東北パイオニア株式会社では、省エネルギーの実現と温室効果ガスの排出量削減に向けて、以下のような取り組みを実施しました。

● ボイラ設備の入替え

暖房や厨房の食器洗浄用として使用しているボイラ2台を、高性能小型ボイラ4台に入れ替えました。これによって、年間10.4KLのA重油使用量削減が見込まれ、CO₂排出量に換算すると年間28トンのCO₂の削減となります。



大型ボイラ2台 (イメージ)



高性能小型ボイラ4台

● 外灯照明 (水銀灯) のLED化

外灯照明48台をLED化しました。これにより、年間36,696kwhの電力使用量の削減が見込まれ、CO₂排出量に換算すると20トンのCO₂削減となります。



(イメージ)

廃棄物の削減と再資源化の推進

川越事業所では、従来より、リサイクルセンターを中心に、事業所全体で、廃棄物の減量化や再資源化に積極的に取り組んでいます。

● 生産系プラスチック類の再資源化推進

製造部の協力を得て、品目ごとの棚作成や表示の工夫などを実施し、製造現場でのプラスチックの分別を徹底することによって、従来8品目であったプラスチック類のマテリアルリサイクルを24品目まで拡大しました。



製造部の
分別棚



表示の
工夫

● 破砕機導入によるミラーマットの再資源化

破砕機を導入し、反発力が高く圧縮しても小さくならなかったミラーマットを破砕することで、減容機に入れられマテリアルリサイクルが可能になりました。



破砕機



破砕後のミラーマット



減容機とインゴット

調達

グリーン調達

- ・グリーン調達基準書をライフサイクル視点で改定 (2016年度)



設計

環境配慮設計

- ・小型化、軽量化
- ・省電力化
- ・渋滞考慮など環境に配慮した機能



生産

環境に配慮した生産

- ・省エネ
- ・資源循環
- ・化学物質管理等



輸送

効率的な輸送

- ・梱包材の削減
- ・モーダルシフト



お客様の使用

環境に配慮した機能

- ・アイドリングアッテネーター
- ・エコルート探索
- ・エコ運転評価案内



廃棄

消費地でのリサイクルスキームへ対応

- ・グローバルでの法規制監視体制
- ・リサイクルを考慮した設計
- ・交通事故を減らして廃棄物も削減



コミュニティへの参画とコミュニティの発展 社会貢献活動

「音・映像」「環境保全」「教育支援」を中心に、積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。

私たちの持つ技術、経験、ノウハウを活かし、「音・映像」「環境保全」「教育支援」を中心に、積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。また、福祉活動・災害支援(マッチングギフト)など、地域社会の要請を考慮したさまざまな分野の活動も行っています。今後も、企業理念「より多くの人と、感動を」のもと、社員一人ひとりが積極的に参加する社会貢献活動に取り組み、豊かな社会の継続を目指します。

♪ 音・映像



● 身体で聴こう音楽会

パイオニアを代表する社会貢献活動のひとつです。創業者の松本 望(故人)が考案した音を振動に変える“体感音響システム”を使い、聴覚に障がいがある方も一緒に楽しんでいただける音楽会です。1992年より定期的に開催しています。



公益社団法人 企業メセナ協議会が実施する「芸術・文化振興による社会創造=メセナ」This is MECENAT 2017に認定。

● 体感音響システム

振動装置が組み込まれたポーチとザブトクッションで構成され、音を振動として身体に伝えることで、聴覚に障がいをお持ちの方(補聴器を使っている難聴、または中途失聴の方)も音楽を楽しむことができます。



🌿 環境保全



● パイオニアの森

2005年に埼玉県農林公社と協定を結び、同県鎌北湖近くにある2.4ヘクタールの松の森を「パイオニアの森」と名付けました。社員と家族の間伐や枝打ちなどの作業により、明るく緑あふれる立派な森へと成長させてきました。今後も子供たちの自然体験教室など、この森を利用した活動を充実させていきます。

🎒 教育支援



● ものづくり教室

ものづくりの楽しさを体験してもらう活動を積極的に行っています。2016年度は7回開催し、117名の参加がありました。「紙工作スピーカー教室」では、音の原理やスピーカーの仕組みを勉強した後、実際に子どもたちが紙製のスピーカー作りに挑戦します。自分で作ったスピーカーから音が出た時の感動を伝えていきたいと考えています。

他企業様と体感音響システムを使用した地域貢献



NECネットエスアイ株式会社 様

2016年10月に、東邦音楽大学との産学連携として、NECネットエスアイ株式会社様によるチャリティーコンサート(第3回NECネットエスアイ「チャリティーコンサート」)が開催され、体感音響システム15台を設置させていただきました。近隣の盲学校の生徒など約260名が演奏を楽しみました。



文化シャッター株式会社 様

2017年1月に当社と同じ文京区に本社を置く文化シャッター株式会社様の文化シャッターBXホールで、初めての「身体で聴こう音楽会」の定期コンサート(第235回)を行いました。体感音響システム33台を設置し、障がいをお持ちの方もお持ちでない方も154名が来場しました。

地域の子どもたちへの教育支援



福祉活動

2016年8月に、香港にある現地法人(Pioneer (HK) Ltd.)の社員21名が、慈善団体である東華三院にて、地域の子どもへの福祉活動として、子どもたちと一緒にハンドクラフトで工作をしたり、ゲームをしたりして楽しみました。



校外学習の受け入れ

2016年8月に、ブラジルにある生産法人(Pioneer do Brasil Ltda.)において、地元の公立小学生28人を招待しました。社会見学の一環として、会社での仕事がどういふものか、カーステアやカーナビゲーションがどうやって生産されるか、生産ラインや職場を見学しました。また環境に対する取り組みとして、ゴミの分別・ゴミを外に捨てない・貴重な水を大切に等々の指針的な部分も合わせて紹介しました。

INTERVIEW

“パイオニアらしさ”を広めたい

私は「身体で聴こう音楽会」をはじめとするパイオニアの社会貢献活動の企画、運営を担当しています。

パイオニアの社会貢献活動は、企業理念や創業者の想いなど、“パイオニアらしさ”を地域社会の皆さまに知って頂く貴重な機会だと思っています。この仕事を通じて、パイオニアが様々な場面で皆さまに必要とされる企業であること

を実感しています。

これからも、これらの活動を広く発信し、多くの皆さまからのご意見を参考に、より充実したものにしていきたいと思っています。

私が目指したい姿は、「より多くの人と、感動を」届けられる一人になることです。

皆さま、是非「身体で聴こう音楽会」にお越しください！



法務・リスク管理部
CSR・環境推進室
鈴木 翔

組織統治、公正な事業慣行

社会から信頼される企業であり続けるために

持続的な企業発展を実現していく上で、
ステークホルダーの皆様との誠実な関係を重視する
当社グループでは、以下の取り組みを実施しています。

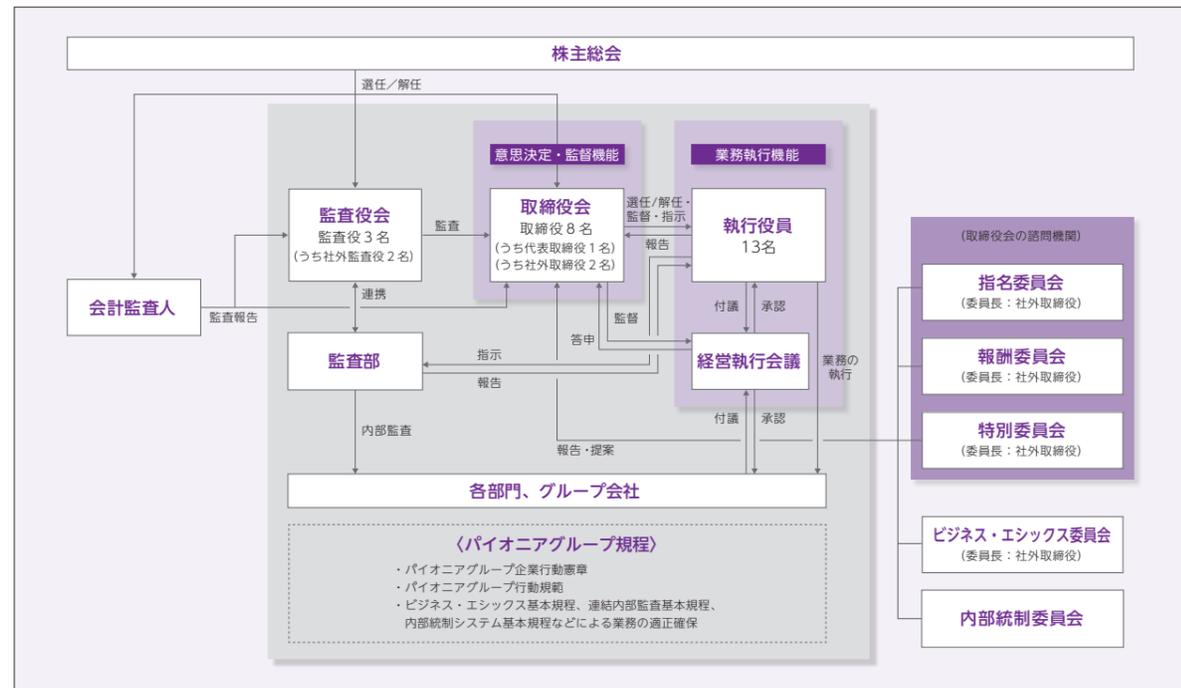
組織統治 (コーポレート・ガバナンス)

当社は、機関設計として「監査役会設置会社」を採用しています。取締役会において執行役員を選任し、取締役会の監督の下、事業推進上の重要課題について迅速な意思決定等を行う「経営執行会議」を設置しています。これにより、取締役は全社的な視点から意思決定機能および監督機能に特化し、執行役員はその業務執行機能を強化することで、コーポレート・ガバナンスの向上を図っています。

取締役については、高い独立性を有する社外取締役を複数選任し、取締役会の監督機能を強化しています。

監査役会は、半数以上が独立性の高い社外監査役で構成されており、取締役の職務執行に対する監査を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制 (2017年6月28日現在)



任意の委員会

経営の透明性を高め、取締役会の監督機能を強化することを目的に、その諮問機関として、社外取締役を委員長とする3つの委員会を設置し、以下のそれぞれの事項を審議します。

- 指名委員会：取締役および執行役員の選解任等や監査役の選任に関する事項
- 報酬委員会：取締役および執行役員の報酬等に関する事項
- 特別委員会：企業買収等の企業価値に重大な影響を及ぼす事態への対応策に関する事項

各委員会での審議の結果は、取締役会に報告・提案され、取締役会は、その内容を十分に尊重の上、これらの事項を決定します。

コンプライアンス・内部通報

パイオニアグループでは、コンプライアンスとは、法令・規範・社会的要請等を遵守することにより、社会から信用と尊敬を得ると共に、従業員が安心して仕事ができる風土づくりでもありと考えています。

パイオニアグループ規程「ビジネス・エシックス基本規程」に基づいて、社外取締役を委員長とする「ビジネス・エシックス委員会」を設置し、「パイオニアグループ行動憲章」および「パイオニアグループ行動規範」の周知徹底を図っています。

また、「パイオニアグループ行動規範」に反する行為の早期発見や適切な対応のために、グループ全体の内部通報制度として「ビジネス・エシックス・ホットライン」を設けています。このホットラインは、外部機関を通報の受付窓口としており、通報者の匿名性を確保しつつ的確に対応できる仕組みとしています。

内部統制システムとリスクマネジメント

事業活動に伴うリスクについて、リスク管理体制の充実・強化を推進するため、パイオニアグループ規程「内部統制システム基本規程」に基づき、リスク管理部門を担当する執行役員を委員長とする「内部統制委員会」を設置しています。「内部統制委員会」では、リスクアセスメントを実施することにより、リスクを把握し、未然防止策の整備を行うなど、リスク対応を図っています。

内部監査については、監査部が、グループ全体の業務運営の状況を監査し、グループ各社の内部監査担当者や監査役会等とも連携を取り、内部統制システムやリスクマネジメント等の監査をはじめ、品質管理、環境等に係る内部監査の充実を図っています。

さらに、監査役は、代表取締役との定期的な会合や、監査部および会計監査人からの定期的な説明および報告の機会を充実させることにより、監査の実効性を確保しています。

公正な事業慣行

パイオニアグループは、社会の一員として平和と秩序を守り、豊かな発展を目指して、社内外の規程・法令の遵守は勿論のこと社会的規範・道徳律を尊重し、公正な企業活動を推進します。

経営情報の適正開示

パイオニアグループは、パイオニアグループ規程「情報開示基本規程」を定め、経営情報について、株主・投資家をはじめ、顧客、取引先、マスコミ、地域社会などすべての利害関係者に対して適時適正な情報開示を行っています。また、この基本規程に基づき、法令・公的規則に基づく情報のみならず、グループの企業理解や投資判断に有用と考えられる情報についても、積極的かつ公正に開示することとしています。そして、「情報の適正な開示」を確実に実行し、透明性の高い企業活動を目指すとともに、株主や投資家および社会からの企業理解と信頼の向上を目指しています。

組織統治、公正な事業慣行

安全保障輸出管理

パイオニアグループは、国際的な平和および安全の維持のため、安全保障輸出管理に関する国際合意および各国の輸出規制関連法規を遵守することを経営理念としています。当社代表取締役を輸出管理を統括する最高責任者とし、パイオニアグループ規程「安全保障輸出管理基本規程」を定め、海外を含むグループ横断的な「パイオニア輸出管理委員会」のもとでの確かな管理を行っています。

公正取引の確保

パイオニアグループでは、公正で自由なビジネスを推進するために、パイオニアグループ規程「公正取引基本規程」を定め、その下位規程として不当な取引制限、不公正な取引方法、私的独占といった競争法関連法規に違反する行為を防止するためのマニュアルを定め、それらの周知徹底のためグループ国内外の法務部門が中心となって、コンプライアンス教育を実施しています。

反社会的勢力の排除

パイオニアグループは、「パイオニアグループ行動規範」により、反社会的勢力および団体との関わりを完全に遮断することとしています。また、パイオニアグループ規程「反社会的勢力対応基本規程」を定め、パイオニアグループにおける情報の共有、対応に関する指導、連絡の徹底を行うなど、組織的かつ毅然として法令等に則った対応を行います。

知的財産の保護

パイオニアグループは、パイオニアグループ規程「知的財産活動基本規程」を定め、事業を展開する上で重要な戦略の一つとして、技術の研究や開発等から得た知的財産を適切に維持管理するとともに、他者が保有する知的財産を尊重することを基本とした知的財産活動に取り組んでいます。

情報セキュリティおよび個人情報保護

パイオニアグループは、情報資産の保全と活用、管理のための仕組みと組織体制など、情報セキュリティ対策の基本ルールとしてパイオニアグループ規程「情報セキュリティ管理基本規程」を定めて情報セキュリティ管理に取り組んでいます。

個人情報保護については、「個人情報保護方針」を制定・公開するとともに、パイオニアグループ規程「個人情報保護規程」を定め、グループ各社は、この規程に従って個人情報を取り扱い、お客様の権利・権益を厳重に保護しています。また、外部からのサイバー攻撃に対する情報セキュリティ強化に取り組んでいます。

危機対応

パイオニアグループは、企業経営に重大な影響を及ぼすおそれのある危機の発生時における適切な対応を図るため、パイオニアグループ規程「危機管理基本規程」を定めています。これに基づき、当社総務部門を担当する執行役員を委員長とする「EM委員会」を常設の組織として置き、危機管理に関する教育・啓発を行うとともに、当社グループの組織毎に担当責任者を配置して、危機発生時における対応と事態解決を行っています。

お取引先様と対等な立場で、誠実な取引を行います

パイオニアグループは、「パイオニアグループ行動規範」においてお取引先様と対等な立場で関係法令および契約に従った誠実な取引を行うことを定めるとともに、お取引先様には事業活動を行う国や地域の法令の遵守、国連やILO、OECDなど国際的な合意事項の尊重に基づく社会的責任を自覚した行動を求めています。

CSR調達の方針

パイオニアグループは2017年にCSRに関する動向に対応し「パイオニアCSR調達ガイドライン」を改定しました。また、本年度は資材調達のお取引先様に対して人権・労働に関するアンケート及び聞き取り調査を実施しました。

CSRを推進する上で、資材調達のお取引先様に対してもお互いの事業活動の中でCSR調達を高めていくことが重要だと考えて積極的な対応を求めています。

反社会的勢力との係わりの排除

パイオニアグループは、お取引先様に対しても、反社会的勢力との係わり、利用、資金の提供など行わないように求めています。

贈収賄の禁止

パイオニアグループが事業活動を行う国で適用されるすべての贈収賄規制に従うことをお取引先様に要請しています。

サプライチェーンBCPの推進

災害や不測の事態が発生した際でも、早期復旧、事業継続を確保し、供給責任を果たすことは製造業としての責務です。お取引先様に対しても、サプライチェーンの明確化とBCPの策定、見直し、レベルアップにより有事発生時の速やかな対応を求めています。

また、事故、災害のみならず、昨今では各国での環境規制強化に伴い対象地域での操業ができなくなるリスクも発生しています。

お取引先様とそのサプライチェーンにおいてもリスクの検証や具体的なリスクヘッジを求めています。

環境法規制の対応

パイオニアグループは、“地球環境を維持改善し、次世代に引き継ぐことは企業の使命である”という環境保護理念の下、お取引先様にも以下の取り組みと強化を求めています。

1. 環境マネジメントシステムの構築
2. 温室効果ガスの削減
3. 資源循環の推進
4. 化学物質の管理

紛争鉱物への対応

パイオニアグループでは鉱物資源採掘にまつわり、人権侵害や環境破壊、児童労働等の問題を引き起こしている鉱物資源を使用した材料、部品、製品は調達しない方針です。

資材調達のお取引先様にもこの方針を求めています。なお、これらの問題に関与していることが明らかになった場合は、お取引先様とともに速やかにその問題の解消を図ります。



事業方針説明会の様子